

妊娠期の夫婦関係が出産体験に及ぼす影響

松本亜紀（倫理文化研究センター専門研究員）

はじめに

本稿は、先に報告した拙稿「妊産婦と実母との関係性が出産体験に及ぼす影響」（2015年）、および「出産体験の肯定的な自己評価の要因」（2016年）の続編である。

前稿までにおいて、現代の妊産婦の多くが実母との緊張関係や関係性の違和感を抱えていること、それらが妊娠に対する否定的あるいは消極的な受け止め方をもたらし、出産への不安や恐怖心を増大させていることを指摘した。さらには、妊産婦が妊娠・出産に抱くイメージは、養育過程に実母の影響を受けて作られるものであり、それらのイメージは、助産師や実母、友人などのかかわりの中で修正可能であることが窺われ、妊婦の心のあり方や妊娠期の過ごし方、物事の受け止め方が、出産体験の自己評価に影響を及ぼすことを指摘した。

本稿はそれを承けて、妊娠期における夫婦関係に着目し、妊娠中の妻を持つ夫の生活実態および心のありようと出産との関連性について考察する。具体的には、「豊かな出産体験」を阻害する妊婦の心理状況が夫婦関係によってどのように改善され、出産にどのような影響を及ぼすのかについて、夫に対し質的調査を実施する。